「現場の薬剤師は漢方薬をどう見ているか」
調査報告書

平成23年10月13日

株式会社QLife（キューライフ）

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【結論の概要】

■調査の背景：

漢方薬に関して、医師や患者に対するアンケート調査はしばしば見られるが、薬剤師に対して（特化して）その実態を調べたものは意外に少ない。

そこで、医療現場で実際に漢方薬の処方箋監査、疑義照会、調剤、服薬指導をしている薬剤師にアンケートを行い、漢方薬をどのように見ているのか、西洋薬との違いはあるか、などについてその実態を明らかにした。

■主な結論：

この集計結果から見えたものは、「漢方薬に対する患者サイドの意識の高まり」と、薬剤師が「漢方薬に対して“難しさ”を感じていること」の2点であった。

西洋薬と異なるアプローチで患者さんに処方されることも多い漢方薬は、非常に高度かつ有機的な知識が求められる。加えて、患者サイドの意識も、副作用や飲み合わせの問題などの「安全性」の問題を中心に、ここ数年向上しており、薬剤師には、漢方薬に関する知識の向上とともに、納得のいく説明スキルが求められている。しかしながら、多くの薬剤知識を有する薬剤師にとっても、漢方薬は“奥の深い”分野であると実感しており、「証」や「適応」含め、より多くの情報を得ることで、患者さんに対して“薬のプロフェッショナル”として、正しい情報を伝えていきたいという意欲があることが分かった。

1．患者サイドの意識の高まりについて

1）ほとんどの患者は漢方薬を処方されたことをはっきりと認識している。
約9割近い薬剤師が、患者に漢方薬を渡す際に「これは漢方薬である」旨をしっかりと伝えている。

2）漢方薬の安全性について、関心が高まってきている。
「効果」「副作用」「飲み合わせ」に関する患者から薬剤師への質問・相談が増加。特に、「漢方にも副作用がある」ことを認識している患者が増えてきている。

2．薬剤師が「漢方薬に対して“難しさ”を感じていること」について

1）多くの薬剤師が漢方薬に“難しさ”を感じている。
「処方箋監査」「疑義照会」「服薬指導」で37～55％の薬剤師が「西洋薬よりも難しいことが多い」と感じている。

2）約9割の薬剤師が何らかの「必要だが、不足している情報がある」と感じている。
「適応外処方」「証の見極め方、証別の使い分け方」「副作用」「併用（相互作用、副作用、効果）」の情報が不足していると考えている。

3）薬剤師の漢方薬に対する情報収集の意欲は高い。
約9割の薬剤師が学習意欲を持っている。現状の情報源は「メーカー・卸からの情報誌・パンフレット」「インターネットでの情報収集」「MRによる情報提供」、今後学びたい情報源は「メーカー主催のセミナー」「漢方の専門誌」など。

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【調査実施概要】

▼実施主体
株式会社QLife（キューライフ）、株式会社ネグジット総研

▼実施概要
(1) 調査名称:　薬剤師の漢方・生薬に関するアンケート
(2) 調査対象:　全国
(3) 有効回答数: 269人
(4) 調査方法:　インターネット調査
(5) 調査時期:　2011/8/26～2011/9/1

▼回答者の属性分布
(1)性・年代:

	男	女	計	男	女	計
20代	7	13	20	4.8%	10.7%	7.4%
30代	73	48	121	49.7%	39.3%	45.0%
40代	50	45	95	34.0%	36.9%	35.3%
50代	16	15	31	10.9%	12.3%	11.5%
60代	0	1	1	0.0%	0.8%	0.4%
70歳以上	1	0	1	0.7%	0.0%	0.4%
計	147	122	269	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 役職

	n	%
経営者	27	10.0%
管理者	133	49.4%
それ以外の正社員	72	26.8%
それ以外のパート社員	37	13.8%
計	269	100.0%

(3)薬局区分

	n	%
OTC併設	80	29.7%
調剤専門	189	70.3%
計	269	100.0%

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

▼回答者の属性分布（続き）
（4）薬局形態

	n	%
101店舗以上	16	5.9%
51～100店舗以下	10	3.7%
31～50店舗以下	16	5.9%
21～30店舗以下	15	5.6%
11～20店舗以下	38	14.1%
6～10店舗以下	40	14.9%
2～5店舗以下	83	30.9%
単店	51	19.0%
計	269	100.0%

（5）1ヶ月応需処方せん数

	n	%
500枚未満	28	10.4%
500～1000枚未満	60	22.3%
1000～1500枚未満	59	21.9%
1500～2000枚未満	45	16.7%
2000枚以上	77	28.6%
計	269	100.0%

（6）薬局の立地状況

	n	%
病院門前薬局	17	6.3%
病院門前薬局	62	23.0%
診療所門前薬局	19	7.1%
診療所門前薬局	134	49.8%
医療ビル・モールの中の薬局	3	1.1%
医療ビル・モールの中の薬局	13	4.8%
上記以外その他	21	7.8%
計	269	100.0%

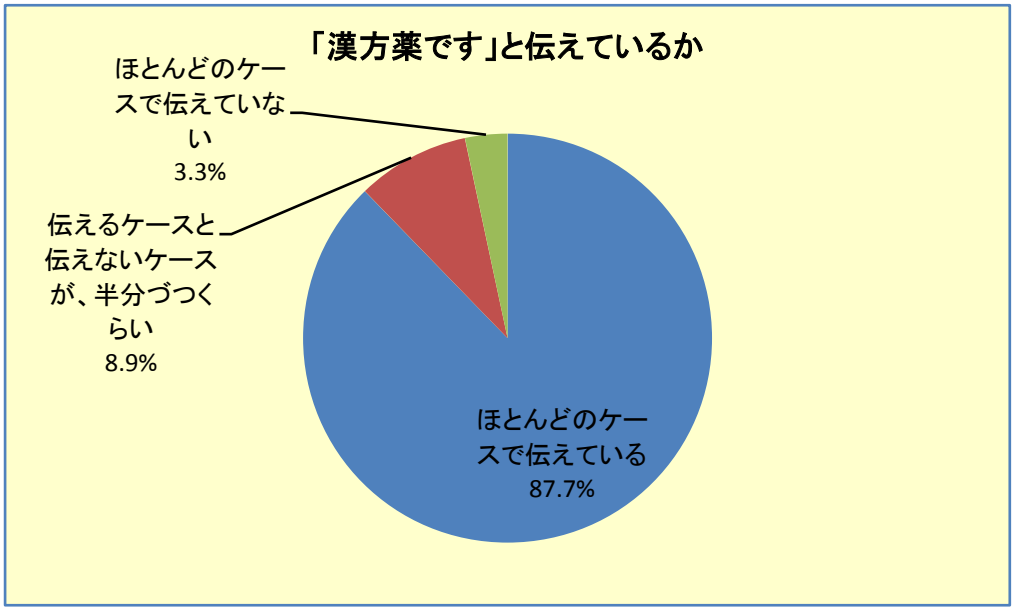
Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

【調査結果の詳細】

1．漢方薬を患者さんに手渡す時に、「これは漢方薬です」と伝えていますか。一番近いものをお選びください。
※「漢方薬」は、全て処方薬に限定してお答えください。OTC漢方薬は除外して下さい。（以下同様）

87.7%と、ほとんどの薬剤師が、漢方薬を患者さんに渡す際に、「これは漢方薬である」旨をしっかりと伝えていることが分かった。
その理由としては、「以前からの習慣でそれが当たり前になっている」「他の薬と飲み方が異なる（食前や食間）ため」「漢方薬というと安心、安全だと考える人がいるため」などが多く挙げられた。ただし2回目以降に渡す際には特に伝えないとした人も多かった。

	n	%
ほとんどのケースで伝えている	236	87.7%
伝えるケースと伝えないケースが、半分づつくらい	24	8.9%
ほとんどのケースで伝えていない	9	3.3%
計	269	100.0%



以下にコメント例を挙げる。

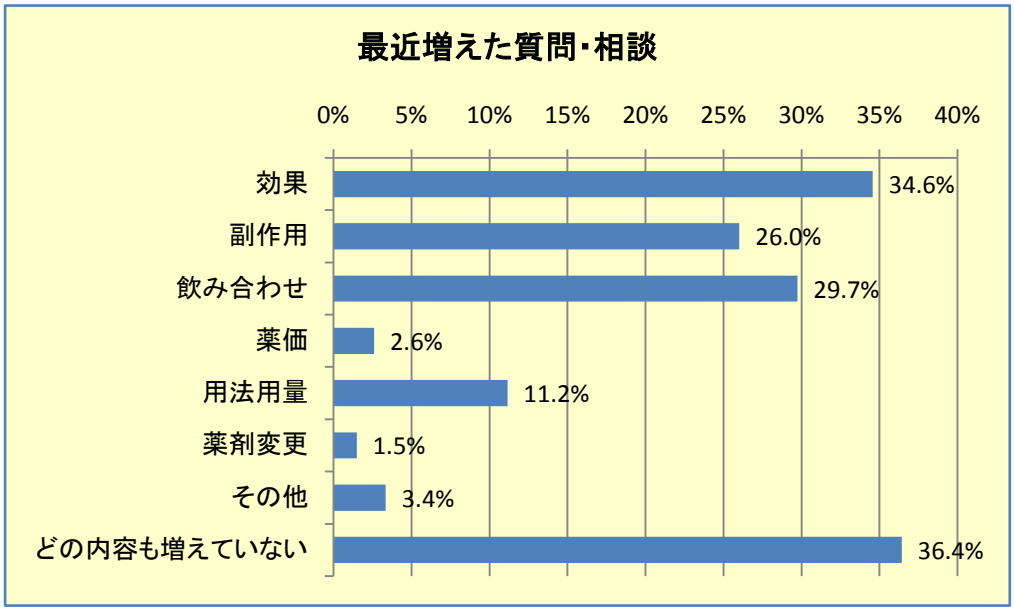
「漢方薬」に対して、その患者さんがどういうイメージを持っているのか不明の間は、「漢方薬」という言葉は使っていない。患者さん側から「今日は漢方薬が出るって聞きました」等の発言があった際には、最初からこの単語を使用している。	診療所門前薬局	40代	女	奈良県
服用法が食前・食間であり通常と異なる。また作用が緩徐である点も伝える必要があるから。	診療所門前薬局	50代	男	愛知県
粉薬で、においがあるので、事前に漢方薬と伝えたほうがよいと思うため	病院門前薬局	30代	男	宮城県
伝えたほうが、その後の服薬指導が患者さんにとって受け入れ易くなると思うから	病院門前薬局	40代	女	神奈川県
西洋薬よりも作用（目的）の特定が難しい場合が多い、服用時も他とは違う、作用も大抵は徐々に出る物が多い、量も多く味も苦手な方も多い	診療所門前薬局	40代	男	北海道

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

2. 漢方薬に関する患者さんからの「質問・相談」で、数年前と比べて最近増えたと思う内容について、あてはまるものをすべてお選びください。

患者さんからの質問・相談で最近増えた内容については、「効果」についてが23.8%で最も多かったが、「飲み合わせ」(20.5%)や、「副作用」(17.9%)といった、安全性に関する質問・相談が増えてきていることが分かった。また、「どれも増えていない」と回答した薬剤師も36.4%にのぼった。

	n	%
効果	93	34.6%
副作用	70	26.0%
飲み合わせ	80	29.7%
薬価	7	2.6%
用法用量	30	11.2%
薬剤変更	4	1.5%
その他	9	3.4%
どの内容も増えていない	98	36.4%
計(重複カウント)	391	145.4%

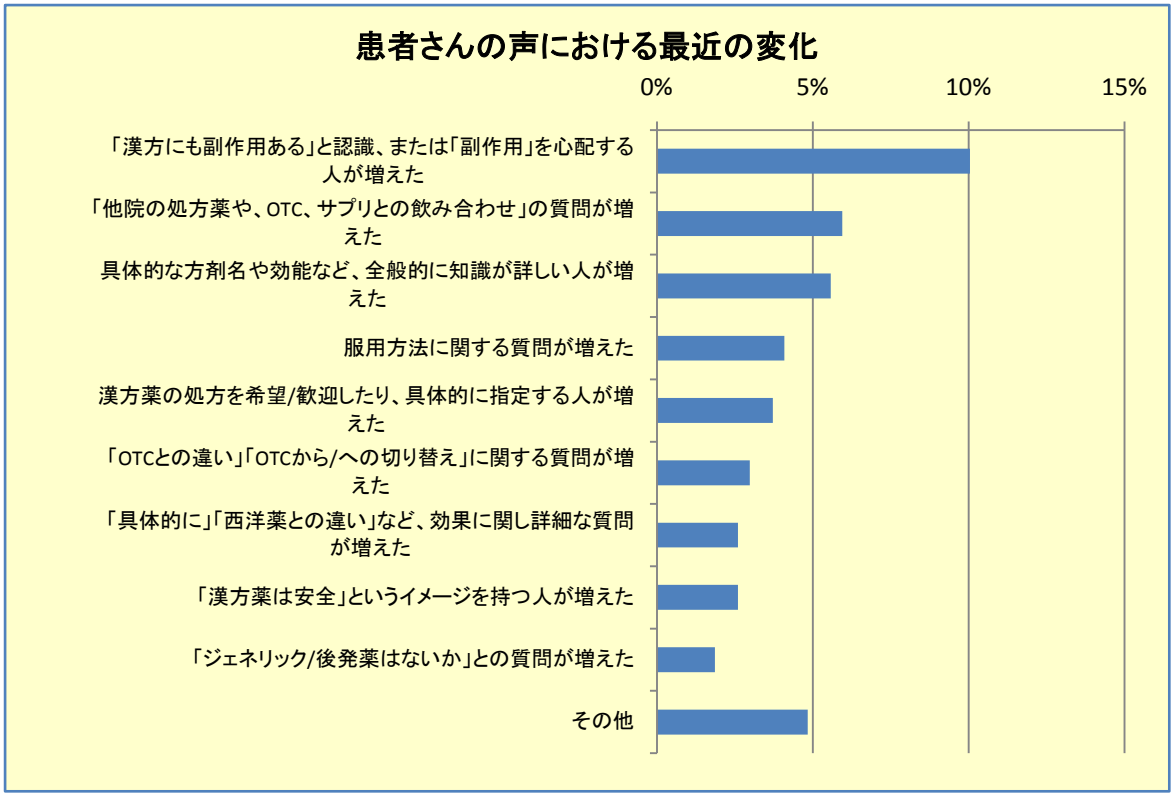


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

3. 漢方薬に対する「患者さんからの声、反応」で、数年前と比べて最近に何か変化はありますか。具体的にお答えください。

全体の4割の薬剤師が、「患者さんの漢方薬に対する意識に変化があった」と回答した。具体的な記述内容を分析したところ、最も多かった変化は、「漢方にも副作用はある」と認識したり「副作用」を心配する人が増えた、とするもので10%に達した。次いで多かったのは「飲み合わせに関する質問が増えた」であり、安全性に関する関心が高まっていることが分かる。

	n	%
「漢方にも副作用ある」と認識、または「副作用」を心配する人が増えた	27	10.0%
「他院の処方薬や、OTC、サプリとの飲み合わせ」の質問が増えた	16	5.9%
具体的な方剤名や効能など、全般的に知識が詳しい人が増えた	15	5.6%
服用方法に関する質問が増えた	11	4.1%
漢方薬の処方を希望/歓迎したり、具体的に指定する人が増えた	10	3.7%
「OTCとの違い」「OTCから/への切り替え」に関する質問が増えた	8	3.0%
「具体的に」「西洋薬との違い」など、効果に関し詳細な質問が増えた	7	2.6%
「漢方薬は安全」というイメージを持つ人が増えた	7	2.6%
「ジェネリック/後発薬はないか」との質問が増えた	5	1.9%
その他	13	4.8%
特になし	119	44.2%
設問趣旨と異なる回答	42	15.6%



Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

＜つづき＞

3. 漢方薬に対する「患者さんからの声、反応」で、数年前と比べて最近に何か変化はありますか。具体的にお答えください。

以下にコメント例を挙げる。

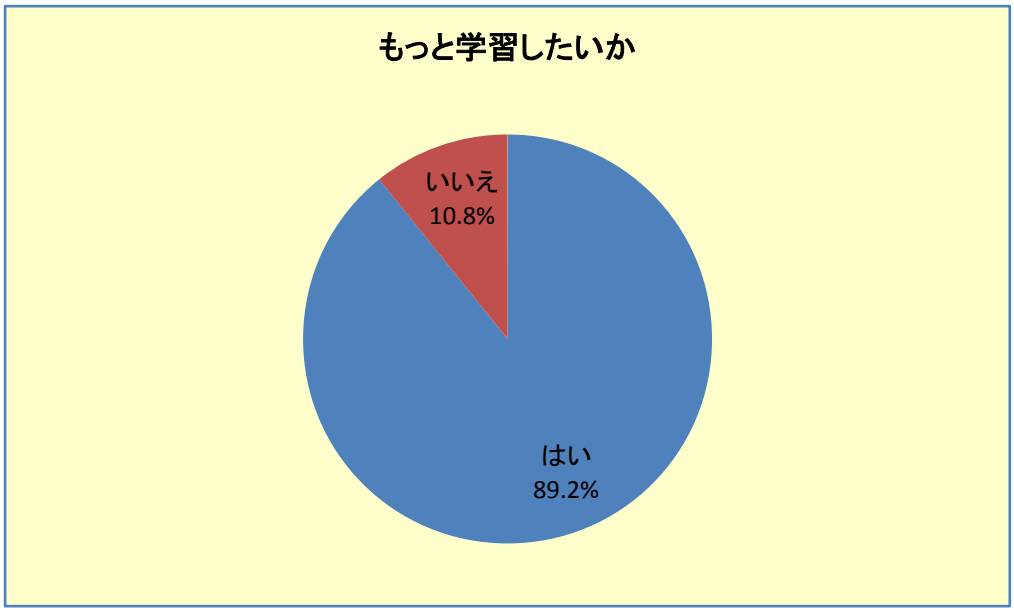
以前は漢方薬なら飲み合わせは無いと、考える患者が多かった。今はよく確認される。	診療所門前薬局	30代	女	熊本県
漢方薬に対しての、神秘的な効果の期待が減り、具体的な効果を求めるようになった。	病院門前薬局	40代	女	愛媛県
患者自体が漢方に詳しくなり、希望する漢方薬を処方してもらっている患者が増えている気がする。	診療所門前薬局	30代	男	群馬県
漢方薬を飲む人が増えてきたので、最近は漢方薬にもジェネリックはないのかとか金額に対する関心が増えている。	診療所門前薬局	30代	男	福岡県
ドラッグストアで売ってるものと同じか？必ず空腹時に服用しないとダメか？と聞かれることが増えた	病院門前薬局	40代	女	愛知県
いろんな医療機関に行きつくして最後に漢方薬にたどり着いた方ばかりだったのが、最近は、ネットでの効果か早めに来る方も増えてきた。	医療ビル・モールの中の薬局	40代	男	兵庫県
副作用に関して、以前は漢方なら大丈夫という意識の方が多かったが最近は気にされる方が多い。数種類の漢方を飲んでる方が意外と多く併用について気にされる。	診療所門前薬局	40代	男	北海道
以前は、漢方は安心、副作用はないと思っている患者さんが多かったが、最近はそのような事を言う人はいない。多種類飲んでいる患者さんからは、飲み合わせが安全かを聞かれる。	病院門前薬局	40代	女	大阪府
Drが子供にも処方するので味について聞かれる事が多くなった。また、市販薬の成分から効果不十分、という事で受診して処方薬に切り替わるケースがある。	診療所門前薬局	30代	男	北海道
長年のまないといけないのなら、漢方薬がいいといわれる患者様が多いです。けれどものみにくいといわれる方が多いです。ドクターが漢方をすすめられるので、患者様も安心して使っている様な気がします	病院門前薬局	40代	女	兵庫県
患者さんの知識が増えている、服用経験がある方が多くなっている、漢方の効果に対する期待度が大きくなっている。	その他	50代	女	宮城県

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

4. 漢方薬を、もっと学習したいと思いますか。近いものをどちらかお選びください。

漢方薬について学習意欲がある薬剤師は89.2%と大半を占める。

	n	%
はい	240	89.2%
いいえ	29	10.8%
計	269	100.0%

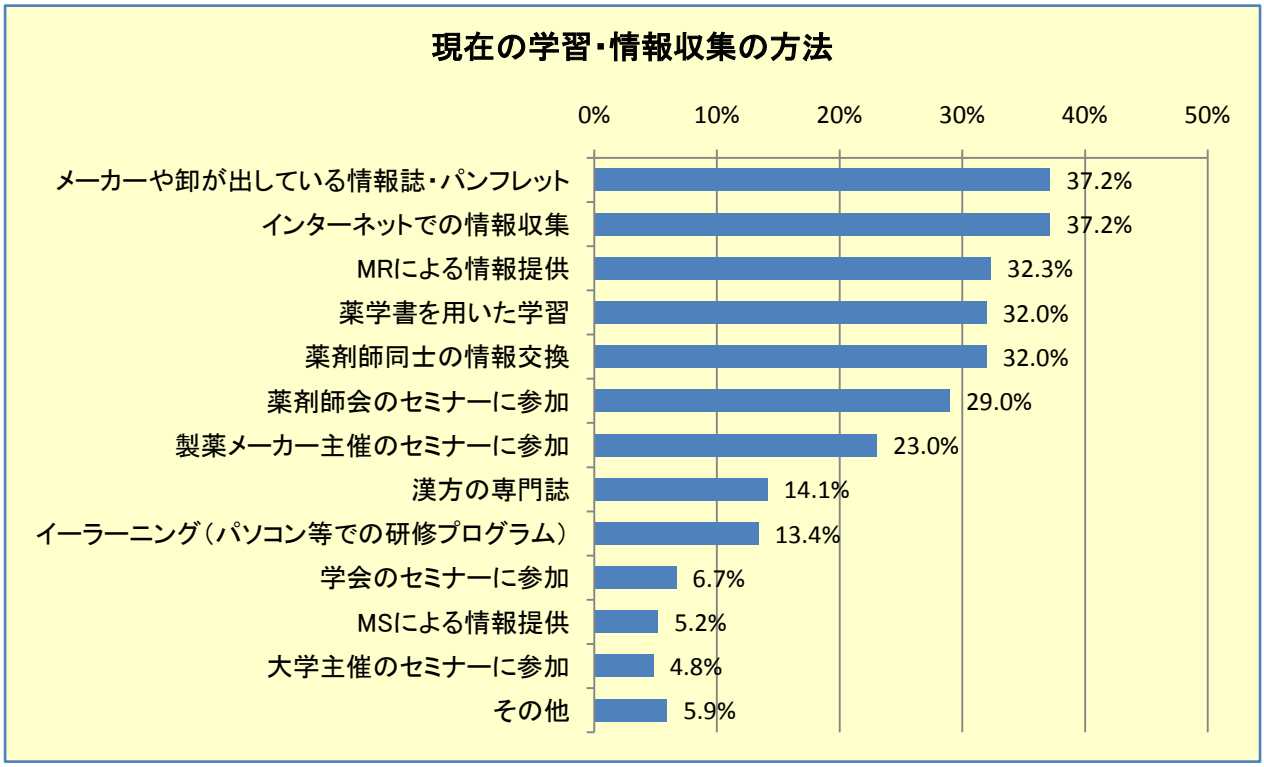


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

5. 漢方薬について、あなたはどのように学習・情報収集していますか。過去1年以内に実施したことについて、あてはまるものを全てお選びください。

漢方薬の学習、情報収集の方法は、「メーカーや卸が出している情報誌・パンフレット」と「インターネットでの情報収集」が最も多く、それぞれに37.2%であった。また、「薬学書を用いた学習」も32.0%と多く、時間に縛られず能動的に学習・情報収集できる手段が利用されているようである。

	n	%
メーカーや卸が出している情報誌・パンフレット	100	37.2%
インターネットでの情報収集	100	37.2%
MRによる情報提供	87	32.3%
薬学書を用いた学習	86	32.0%
薬剤師同士の情報交換	86	32.0%
薬剤師会のセミナーに参加	78	29.0%
製薬メーカー主催のセミナーに参加	62	23.0%
漢方の専門誌	38	14.1%
イーラーニング（パソコン等での研修プログラム）	36	13.4%
学会のセミナーに参加	18	6.7%
MSによる情報提供	14	5.2%
大学主催のセミナーに参加	13	4.8%
その他	16	5.9%
計（重複カウント）	734	272.80%

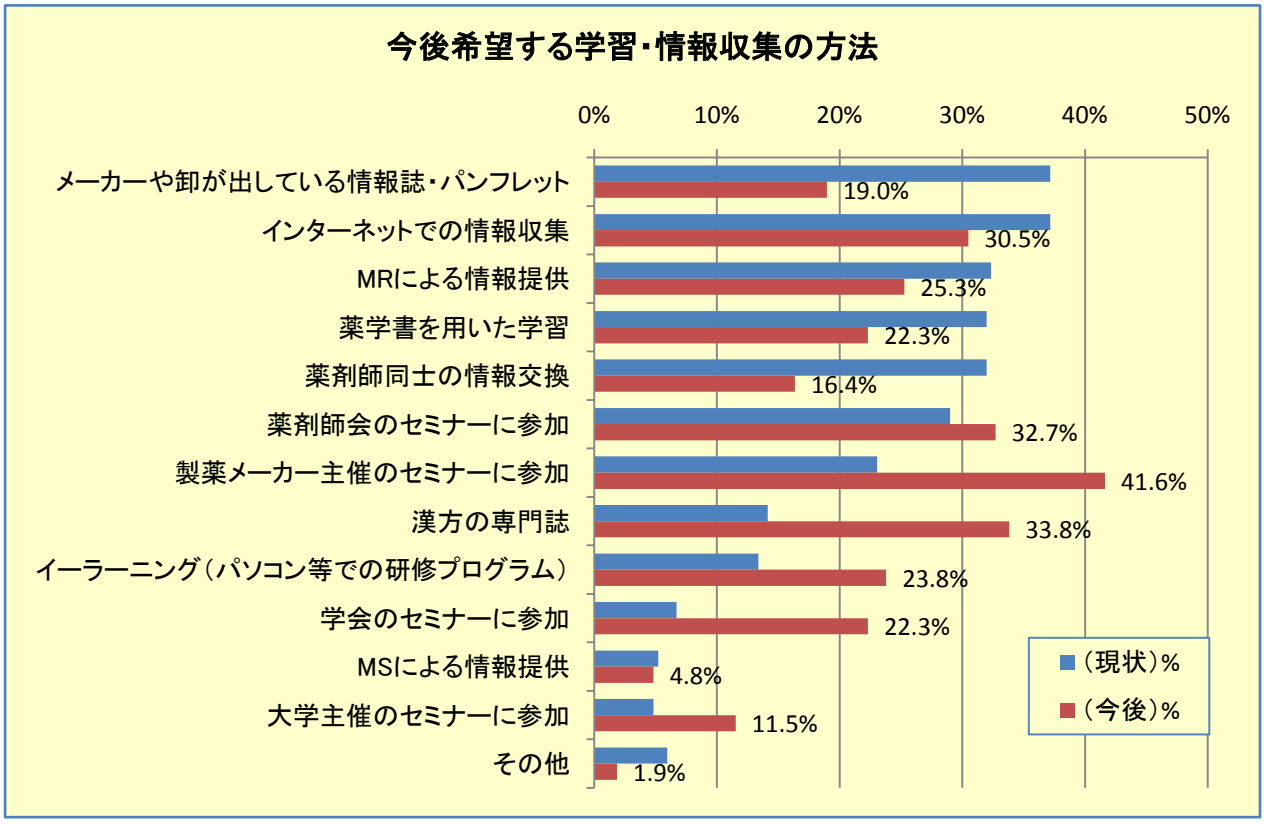


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

6. 漢方薬の学習・情報収集方法として、今後希望するもの、また増やしたいものはどれですか。あてはまるものを全てお選びください。

今後希望する漢方薬学習は、「製薬メーカー主催のセミナーに参加」が最も多く、41.6%であった。次いで、「漢方の専門誌」33.8%、「薬剤師会のセミナーに参加」32.7%となった。特に、上位2項目は現状の情報収集の割合とのかい離も大きく、今までの学習・情報収集とは異なる方法にも期待を寄せているようだ。
※表、グラフ中の「現状」は、設問5の回答を表している。

	n	(今後)%	(現状)%
メーカーや卸が出している情報誌・パンフレット	51	19.0%	37.2%
インターネットでの情報収集	82	30.5%	37.2%
MRによる情報提供	68	25.3%	32.3%
薬学書を用いた学習	60	22.3%	32.0%
薬剤師同士の情報交換	44	16.4%	32.0%
薬剤師会のセミナーに参加	88	32.7%	29.0%
製薬メーカー主催のセミナーに参加	112	41.6%	23.0%
漢方の専門誌	91	33.8%	14.1%
イーラーニング(パソコン等での研修プログラム)	64	23.8%	13.4%
学会のセミナーに参加	60	22.3%	6.7%
MSによる情報提供	13	4.8%	5.2%
大学主催のセミナーに参加	31	11.5%	4.8%
その他	5	1.9%	5.9%
計	269	100.0%	100.0%

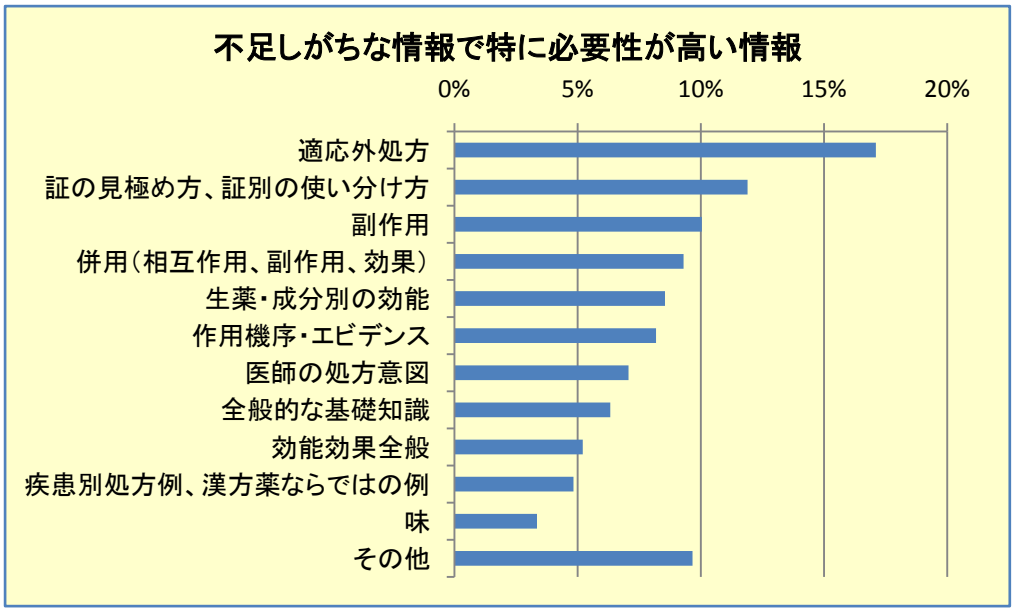


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

7. 漢方薬について、「不足がちな情報のうち」あなたにとって特に必要性が高い情報は何ですか。具体的に教えてください。

9割以上の薬剤師が何らかの「必要だが不足がちな情報」と回答。具体的な記述内容の分析の結果、「適応外処方」に関する情報が不足して困っている薬剤師が17.1%に達した。
加えて、「証」や「生薬・成分別の効能」といった、漢方薬ならではの情報や、併用時の注意点に関する情報を欲している薬剤師も多くみられた。

	n	%
適応外処方	46	17.1%
証の見極め方、証別の使い分け方	32	11.9%
副作用	27	10.0%
併用（相互作用、副作用、効果）	25	9.3%
生薬・成分別の効能	23	8.6%
作用機序・エビデンス	22	8.2%
医師の処方意図	19	7.1%
全般的な基礎知識	17	6.3%
効能効果全般	14	5.2%
疾患別処方例、漢方薬ならではの例	13	4.8%
味	9	3.3%
その他	26	9.7%
特になし、または設問趣旨と異なる回答	13	4.8%
計（重複カウント）	286	106.3%

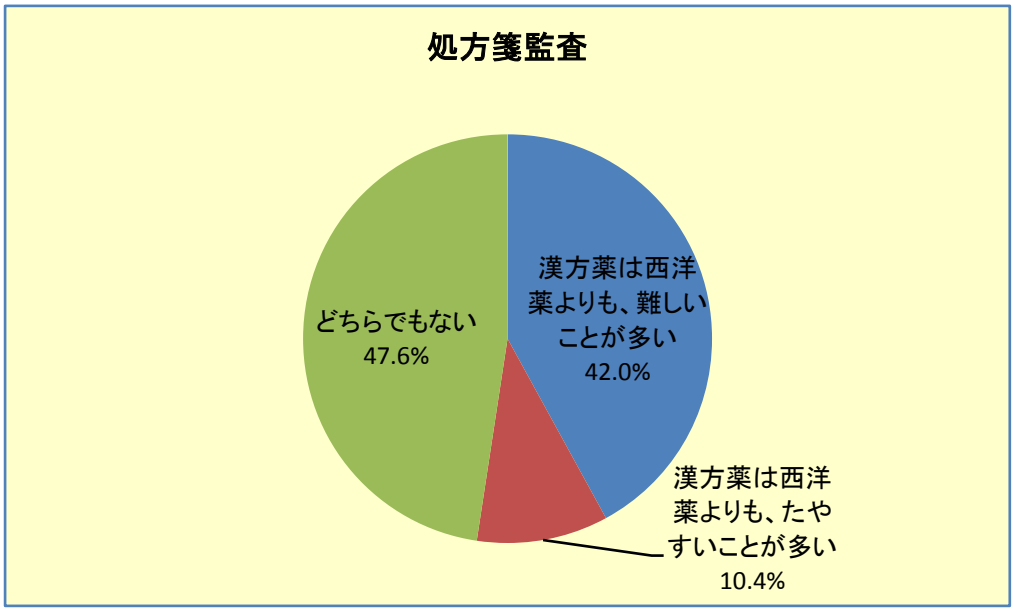


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

8. 日頃の実務において、「処方箋監査」で、あてはまるものをひとつお選びください。

処方箋監査の実務において、漢方薬と西洋薬で難易度に差はないとする人が47.6%で半分近くを占めたが、「西洋薬よりも難しい」とする人も42.0%と多い。逆に「西洋薬よりもたやすい」とする人は10.4%と少数派であった。

	n	%
漢方薬は西洋薬よりも、難しいことが多い	113	42.0%
漢方薬は西洋薬よりも、たやすいことが多い	28	10.4%
どちらでもない	128	47.6%
計	269	100.0%

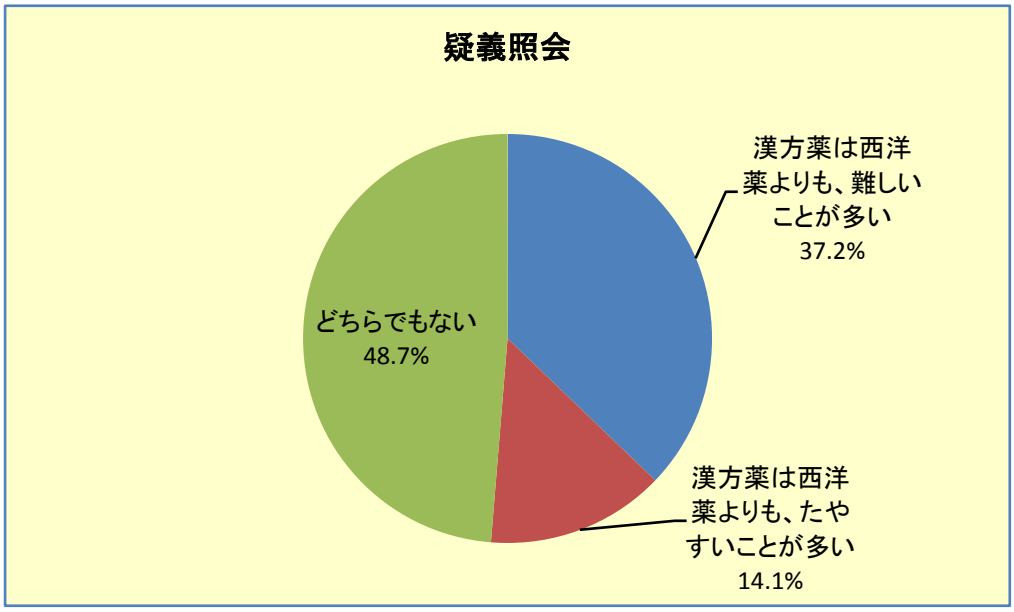


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

9. 日頃の実務において、「疑義照会」で、あてはまるものをひとつお選びください。

疑義照会実務において、漢方薬と西洋薬で難易度に差はないとする人が48.7%で半分近くを占めたが、「西洋薬よりも難しい」とする人も47.2%と多い。逆に「西洋薬よりもたやすい」とする人は14.1%と少数派であった。

	n	%
漢方薬は西洋薬よりも、難しいことが多い	100	37.2%
漢方薬は西洋薬よりも、たやすいことが多い	38	14.1%
どちらでもない	131	48.7%
計	269	100.0%

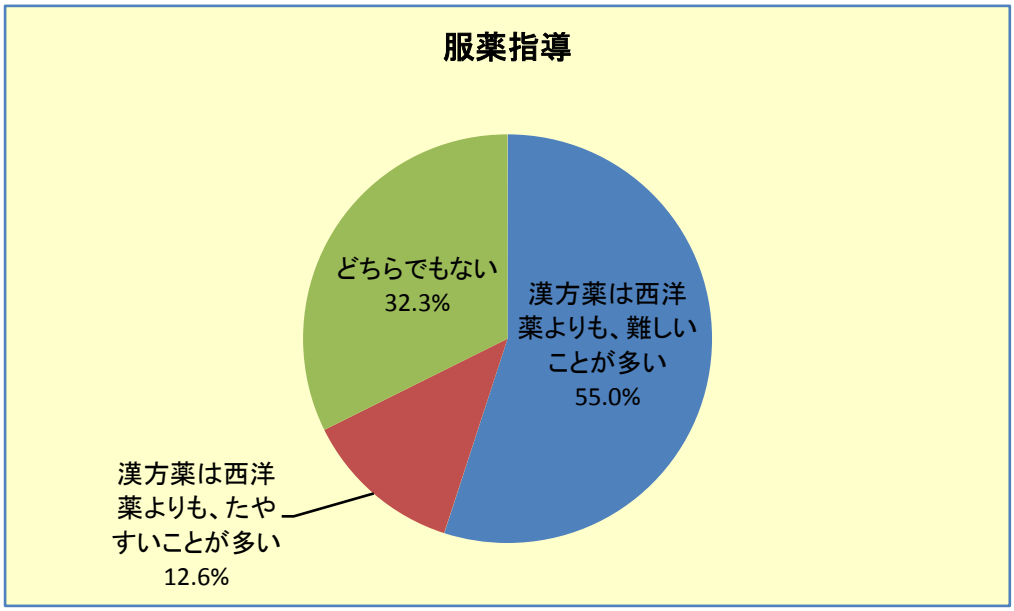


Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

10. 日頃の実務において、「服薬指導」で、あてはまるものをひとつお選びください。

患者さんへの服薬指導においては、「漢方薬は西洋薬よりも難しい」とする薬剤師が55.0%と過半を占めた。

	n	%
漢方薬は西洋薬よりも、難しいことが多い	148	55.0%
漢方薬は西洋薬よりも、たやすいことが多い	34	12.6%
どちらでもない	87	32.3%
計	269	100.0%



Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

11. 効能効果が幅広い漢方薬で、「処方意図の確認やそれに沿った情報提供」のために、何か工夫していることがあったら教えてください。

「MRが来た時に処方例をたどって意図を確認」などメーカーに訊く薬剤師もいたが、ほとんどは「患者さん/医師とのコミュニケーション」を挙げた。特に患者さんから失礼にならないように情報を引き出す方法には苦心をしており、「一緒に処方されている西洋薬や受診科目を参考に推察」「オープンな質問から会話を始める」「一般的な効能効果を言う前に、必ず今日の受診理由・医師の説明を確認」などが多い。「必ずバイタルサインを採る」「顔色表情や手の色艶を観察する」薬剤師もいる。 以下にコメント例を挙げる。

MRさんがいらしたとき必ず、どのドクターがどの漢方をだされたか、毎回確認しあい、意図を教えていただいています。そこで疑問があれば、MRさんにドクターのお考えをきいてきていただいています。患者さんにも漢方がなぜ処方されたのか、必ずお聞きしています。	病院門前薬局	40代	女	兵庫県
処方の多くは添付文書に沿ったものであり、意外な使われ方をしていることはほとんどないため、見慣れない処方が来ても他の西洋薬との組み合わせにより大体把握できる。それも難しいようならインターネットで検索したり、大学の先生に質問したりしている。	診療所門前薬局	30代	男	北海道
初めて処方する場合は、体質の確認をまず行っている。冷えがあるの場合は、『〇〇が入っていて、体を温める効果があり、冷え体質も改善してくれます』のように。体質の確認ができたら、症状も患者さんから聞き取りやすくなることが多い。	医療ビル・モールの中の薬局	20代	女	香川県
漢方の根本の働きを伝え、すべてをカバーできるように努める。広くいうと体全体の気の流れを整える薬ですが、具体的にはよく～に用いられますなどど探りながら話をして患者の症状を聞き出す	病院門前薬局	30代	男	和歌山県
通常の服薬指導よりも時間をかけて患者さんと会話出来るように心がけている（いきなり薬の説明から入るのではなく、患者さんにリラックスしてもらえるようにプライベートな話を振る等）	診療所門前薬局	40代	女	奈良県
患者さんから聞き取りをしながら、先生による癖・使い方を知る。オーソドックスな使い方、適応外処方が多いに大きく分れますが、それだけでも指導に際して失敗が少なくなります。	その他	50代	女	東京都
患者さんが医師から処方薬についてどのような説明を受けているかを最初に聞く。適応外で薬情に記載のない事だったら、患者さんが不安不信を持たないようフォローしておく	診療所門前薬局	30代	女	兵庫県
日ごろから医師の考えを確認しておく。 情報誌・インターネット等を通じ、漢方薬に限らず治療法を確認している（漢方薬の知識のみでは適切な情報提供は難しい）	診療所門前薬局	30代	男	東京都
西洋薬との組み合わせで処方されるので、それからある程度判断する。 また、大雑把な薬効を話して(例えば利水作用のある薬で～等)探りを入れてみる。	診療所門前薬局	30代	男	北海道
説明の前に、処方された科でどのような疾患か判断し、まず最初にどのような症状でかかったか聞き出してからそれに沿った説明をします。	診療所門前薬局	40代	男	千葉県
一般的な効能効果を言う前に、必ず今日の受診理由・医師の説明を確認する。漢方に限ったことではないが、漢方は特に注意している	病院門前薬局	30代	男	東京都
指導に入る前になるべく患者さまから情報を引き出す様に話しかけます。きっちりと症状が把握できたらそれに合わせた様にお話します。	診療所門前薬局	40代	男	北海道
医師の目的を誤解させないために、薬の説明は最後にして、まずはどのような症状で受診したかじっくりと話を聞くようにしている。	医療ビル・モールの中の薬局	30代	男	兵庫県
新規処方時は、患者からの情報収集はもちろんのこと、保険上の適応症以外に考えられる作用などできるだけ把握して説明に臨む。	病院門前薬局	30代	女	千葉県

Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

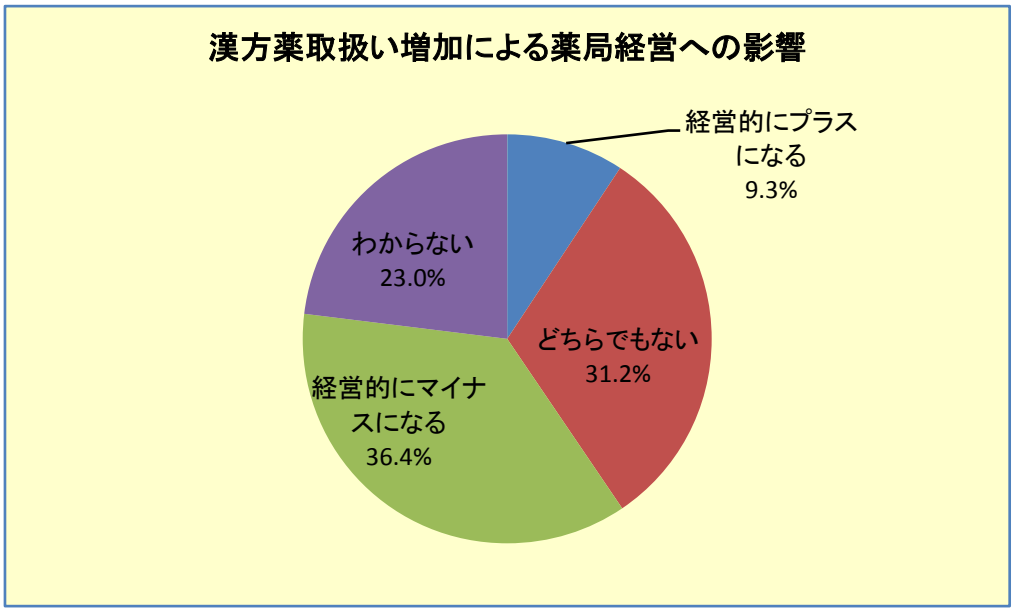
12. 漢方薬の取り扱いが今よりも増えると、薬局の経営上では、どのような影響があるでしょうか。あてはまるものをひとつお選びください。

40%を超える薬剤師が、漢方薬の取り扱い増加に対し、経営に影響は無いもしくはプラスになると回答。実際の金額面に加え、「コミュニケーションが密になる」と回答するなど、“顧客満足”の面でも経営にプラスになる、という意見もあった。

●経営にプラスになる理由
・長期服用となることが多い
・食前、食間の服用が多いので調剤料の算定につながる
・患者とのコミュニケーションが密になる

●経営にマイナスになる理由
・後発品がないためGE率が下がり、後発品調剤体制加算にマイナス
・在庫管理が難しく、デッドストックが生じやすい
・納入価が高く、薬価差益が少ない

	n	%
経営的にプラスになる	25	9.3%
どちらでもない	84	31.2%
経営的にマイナスになる	98	36.4%
わからない	62	23.0%
計	269	100.0%



Copyright © QLife, Inc. All Rights Reserved.

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当
TEL：03-5433-3161 ／ E-mail : info@qlife.co.jp

＜株式会社QLifeの会社概要＞
会社名 :株式会社QLife（キューライフ）
所在地 :〒154-0004　東京都世田谷区太子堂2-16-5　さいとうビル4F
代表者 :代表取締役 山内善行
設立日 :2006年（平成18年）11月17日
事業内容:健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業
企業理念:生活者と医療機関の距離を縮める
サイト理念:感動をシェアしよう！
URL：http://www.qlife.co.jp/

Copyright © QLife, Inc.　All Rights Reserved.